



東原マスコット「かめっち」

校長室の窓から



座間市立東原小学校
校長 花岡 菜穂子
電話:253-3145

梅雨入りから、1カ月。一雨ごとに夏が近づいてきました。6月は、2年生のさつまいも苗植えとトウモロコシの皮むき体験・3年生のお店見学・4年生の自転車乗り方教室・土曜参観・情報教育モラル・ゲーム集会・芸術鑑賞会があり、児童の学びや交流がさらに充実した日々でもありました。草木がさらに成長をするこの時期に、本校の教育目標についてお伝えをさせていただきます。

学校教育目標「自ら学び 共に歩む」
スローガン ～みんなが通いたくなる学校～



学校教育目標「自ら学び 共に歩む」の実現に向け、日々の授業改善に取り組んでいます。今年度の校内研究では、子どもたちが主体的に学ぶ姿勢を育てるため、特に授業の中での「問い」を大切にした実践を進めています。なぜ今「問い」が重要なのか、その理由と学校での取り組みについてご紹介いたします。

☆なぜ、今「問い」が大切なのか？

これからの予測困難な時代を生きる子どもたちには、与えられた問題を解くだけでなく、「何が問題なのか」「どう解決すればよいのか」を自ら見出す力が求められます。その出発点となるのが「問い」です。

1. 知的好奇心を刺激する

「なぜ？」「どうして？」という疑問が、学びのエンジンになります。

2. 思考を深める

自分で問いを立てることで、物事を多角的に考えるようになります。

3. 共に歩む(対話)のきっかけになる

一人ひとりの異なる問いを持ち寄ることで、友達との深い話し合い(協働的な学び)が生まれます。

ただ知識を「教えられる」受け身の姿勢から、自ら「おもしろそう、突き詰めたい！」と動き出す主体的な姿勢へ。そのスイッチを入れるのが「問い」の力です。

☆学校での取り組み:授業の中の「問い」

本校の授業では、教師が一方的に教えるのではなく、子どもたちから「問い」を引き出す工夫を研究しています。

1. 「おや？」を生み出す工夫

これまでの学習経験と少し違う結果(ズレ)を見せることで、「なぜそうなるの？」という疑問を引き出すように工夫しています。

2. 問いを言葉にする時間

教科や学習内容によって単元の導入(はじめ)の段階で「この学習でみんなは何を解決したい？」と投げかけながら、学習に向かう子どもたちが主体的に活動するきっかけをつくるように工夫しています。

3. みんなで問いを磨く

「〇〇さんの疑問、おもしろいね！」「それなら、こういう場合はどうなるかな？」と、友達同士で問いを広げ、深め合う活動になるよう工夫しています。

☆ご家庭でもできる「問い」の育み方

子どもたちの「問い」を育てるヒントは、日常生活の中にもたくさんあります。ぜひご家庭でも、つぎのことを意識してみてください。

1. 「なんで？」にすぐ答えを出さない

例えば、子どもから「どうして雨は降るの？」と聞かれたら、すぐに答えを教えるのではなく、「どうしてだと思う？」と問い返してみてください。正解でなくても、自分で考え予想することが立派な学びとなります。

2. 「どう思う？」と言葉を投げかける

ニュースや日常生活の出来事について、「あなたならどうする？」と意見を求めることで、自分事として考える習慣がつきます。

3. 疑問を持ったことを褒める

「よくそこに気づいたね！」「おもしろいところに目をつけたね！」という言葉が、次の「問い」を生む自信になります。

学校での「自ら学び」、そして友達や家庭、地域と「共に歩む」姿。これらを繋ぐ架け橋が、子どもたちの心の中に生まれる「問い」です。学校と家庭が手を取り合い、子どもたちの小さな「なぜ？」を大切に育ててまいりたいと思っています。今後とも温かいサポートをよろしくお願いいたします。

【ゲーム集会・6月16日(火)】

全校でゲーム集会を楽しみました。6年生の子どもたちは、下級生にアンケートフォームでゲーム内容を決定し、相手意識を大切にしながら計画や準備を行いました。当日は、ゲームの説明や進行・運営に一生懸命活動しました。まさしく、これが主体的な学びの場となりました。下級生が楽しんでいた様子やたくさんの笑顔を見ることができたこと、主催者側としての充実感や満足感を得る貴重な体験をしました。

また、6年生の様子を見ていた5年生は、「次は、自分たちの番だ！」と気持ちを新たに高める機会となりました。6年生の皆さん、素敵な時間をプレゼントしてくれて、ありがとうございました。



★子どもたちの活動の様子は、随時「東原小学校ホームページ」にて、お知らせをさせていただいております。お時間のある時に、ご覧になっていただくと幸いです。